

蒜山だいこん

ひるせん



たかしの家は、「蒜山だいこん」を育てる農家です。いつも、お父さんやお母さんの大根作りの手つだいをしています。今日の夕食にも大根の料理があります。

「大根、あまくておいしいねえ、おじいちゃん。

蒜山の人はみんな大根がすきだよね。この大根、蒜山で、どうして作るようになつたの。」

おじいちゃんは、「蒜山だいこん」について、ゆっくり話し始めました。

せんそうが終わつて間もなくのことじゃ。国は、蒜山を切り開くために全国から「入植者」を募集して、百人以上の人が集まつたんじゃ。たくさん的人は集まつたものの、それまで農業をしたことの



蒜山だいこん JAまにわ提供



ない人も多かつた。その上、もともと蒜山地方は「黒ぼこ」とよばれる火山灰土だつたので、土に養分もなく、作物がなかなか育たない土地だつたんじや。そのために日々の暮らしにこまり、蒜山を出て行く人が後をたたなかつたんじや。



「蒜山の人々が食べていけるように、何かないだろうか。」

蒜山の美しい山々を見ながら、農業を指導していた谷本さんは考えた。谷本さんも、もともとは蒜山にやつてきた入植者にゅうしょしゃの一人だつたんじや。

「わたしは、この土地が大すきだ。この蒜山のよきを生かした作物があるはずだ。」

谷本さんは、入植した人たちと協力きょうりょくして、実験じかんをくりかえしているうちに、「みの早生わせうだいこん」というしゅるいの大根に出会つた。大根は、もともと秋から冬にかけてとれる野菜やさいじゃが、蒜山の夏のすずしさを生かして、大根を作ることを思いついたんじや。



しかし、はじめは蒜山の「黒ぼこ」のために、芽すら出なかつた。そこで、ひりょうを入れたり、草をうめこんだりして、野菜さいが育つ土にかえていったんじや。

そして、何年かすぎたころのことじや。

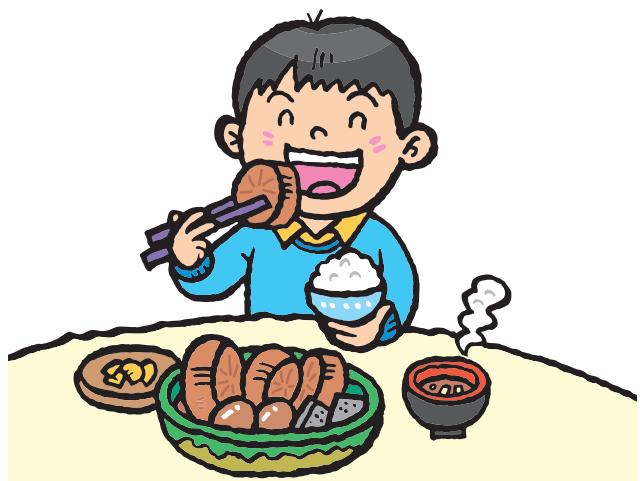
「芽が出たぞ。」

谷本さんは、「黒ぼこ」から出た小さな小さな大根の芽をみんなと見つめたそうじや。土に養分ようぶんができると、火山灰土かざんばいどは土のつぶが小さいので、ほかの土にくらべて野菜の根はどんどん太く大きく育つ。大根は、根を食べるのだから、蒜山ほどよい土地はなかつたんじや。

「蒜山だから、蒜山のこの土地だからできた大根だ。」

そして、数年をかけて、蒜山の人々に夏の大根のさいばいが広まり、さらに十年後の昭和三十六年（一九六一年）「蒜山だいこん」という名前で、日本全国に出荷され

ることになつたんじや。



今では、「蒜山ひるぜんだいこん」は、ジャージー牛とともに蒜山けんがいを代表する特産物とくさんぶつの一つになつた。そして、休みの日には、県外けんがいからもたくさんの人ひとが「蒜山ひるぜんだいこん」をもとめてやつてくるようになつたんじや。蒜山ひるぜんの人々は、「蒜山ひるぜんだいこん」が多くの人たちに知れわたり、愛されるようになると、今でもささまざまなくふうを重ねているんじやぞ。

たかしは、おじいさんの話を聞いて、いつも食べていた「蒜山ひるぜんだいこん」が、今日はいつもよりずっとおいしいと思いました。そして、「蒜山ひるぜんだいこん」のよさよさをもつと多くの人に知つてもらいたいと思いました。

今年ももうすぐたくさんの人ひとがさんかする蒜山のマラソン大会が開かれます。たかしは、そこでみんなと「蒜山ひるぜんだいこん」のことを話すのが楽しみになりました。

※蒜山マラソン大会では、毎年、さんか者に「蒜山ひるぜんだいこん」が配られています。

1 主題名 郷土のために

2 主題設定の理由

(1) 内容項目について

ねらいとする価値は、C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する心「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心をもつこと。」である。郷土とは、自分が生まれたり育つたりした土地や地域であり、人が生きていく上で心のよりどころとなる等、自己の形成に大きな役割を果たすとともに、一生にわたり大きな精神的支えとなるものである。

中学年では、地域の行事や活動に興味をもち、積極的に関わろうとする態度を育てることが求められる。自分の地域には、人々が守り、伝えてきた行事や活動・事物があること、そして、そこには郷土を愛する人々の思いが込められていることに気付かせたい。

(2) 児童の実態について

この時期の児童は、地域での生活が活発になり、地域の行事や活動に興味をもつようになってきている。また、社会科や総合的な学習の時間の学習等を通して、地域の生活や環境の特色にも目が向けられ、郷土のすばらしさを実感できるようになってきている。しかし、先人の思いやそれを引き継ぐ人々の思いまでは気付いておらず、地域の一員として郷土のために関わっていこうとする意欲までには至っていない。

そこで、自分との関わりにおいて郷土のよさを捉えさせ、郷土・地域を大切にしようとする心を育んでいきたい。

(3) 教材について

たかしは、おじいさんから「蒜山だいこん」が生まれた経緯を聞く。その中で、蒜山の70年前の様子や入植した人々が蒜山のよさを生かした大根の栽培や畑の実験を繰り返し、苦労や工夫を重ねながら、夏の大根を栽培することに成功したことを知る。そして、蒜山の人々が大切にしてきた「蒜山だいこん」のよさをもっとみんなに知らせたいと思うようになるという内容である。

たかしの気持ちを考えることを通して、郷土の人々の思いを知り、郷土の一員として進んで関わっていこうとする心情を育てたい。

◇板書例

○ 地域の行事等に参加した時	◇郷土の人々の思いを知り、進んで関わろうとする気持ちが大切。	大根を食べているたかし	大きく育った大根	悩んでいる谷本さん	おじいさんとたかし	蒜山だいこん	地域の行事 秋祭り、クリーン作戦
	多くの人に蒜山だいこんのこと	今まで何も知らず食べていた。	大根がいつもよりおいしいと感じているたかしの気持ち	蒜山のよさが見付かって	蒜山をはなれて行く人を見た時の谷本さんの気持ち	おじいさんの話を聞きたいと思つた時のたかしの気持ち	めあて 郷土を愛するため大切な気持ちを考えよう。

たかしは、おじいさんから「蒜山だいこん」が生まれた経緯を聞く。その中で、蒜山の70年前の様子や入植した人々が蒜山のよさを生かした大根の栽培や畑の実験を繰り返し、苦労や工夫を重ねながら、夏の大根を栽培することに成功したことを知る。そして、蒜山の人々が大切にしてきた「蒜山だいこん」のよさをもっとみんなに知らせたいと思うようになるという内容である。

たかしの気持ちを考えることを通して、郷土の人々の思いを知り、郷土の一員として進んで関わっていこうとする心情を育てたい。

◇参考

1946年食糧増産のため、蒜山開拓が始まる。1950年農業試験場の調査・指導で土地改良が始まる。1953年大根の試作が始まる。1961年「蒜山地区みの早生だいこん出荷連合会」が結成。「蒜山だいこん」と命名される。

3 ねらい

郷土を愛するために大切な気持ちを考える中で、郷土の人々の思いを知り、自分から進んで関わろうとする気持ちの大切さに気付き、進んで郷土を大切にしようとする心情を育てる。

4 展開

○は基本発問 ◎は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1 地域の行事に参加した時のこと振り返り、めあてをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の行事に参加して、どんなことを思いましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・クリーン作戦に参加したとき、地域のおじさんにはめてもらってうれしかった。 ・住んでいる郷土のことは大好き。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">郷土を愛するために、大切な気持ちを考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事等にどのような気持ちで参加していたかを振り返り、どんな気持ちが、郷土を愛することにつながるのか投げかけ、めあてをもちやすくする。
2 「蒜山だいこん」を読んで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ おじいさんの話を聞きたいと思うたかしはどんなことを考えているでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・今まで蒜山だいこんの事を考えた事がなかったな。もっと知りたいな。 ○ 谷本さんは、せっかく入植しても蒜山を離れていく人を見てどんなことを思ったでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・蒜山が好きだ。何とか工夫してみんなが蒜山で暮らせるようにしたい。 ○ ようやく蒜山で大きく育った大根を見た時、谷本さんはどんなことを思ったでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・これで、みんなが蒜山で暮らせる。 ・蒜山のよさを生かすものが見付けられた。大切に育てたい。 ○ 大根がいつもよりおいしいと感じているたかしはどんなことを考えているでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・今まで何も知らずに食べていた。 ・この大根には多くの人の苦労や思いが込められていたんだ。 ・地域の人たちが蒜山だいこんを大切に思い、ずっと盛り上げようとしていたんだ。 ・自分も郷土のために何かしたい。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">郷土の人々の思いを知り、自分から進んで関わろうとする気持ちが大切だな。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「蒜山の人はどうして大根が好きなんだろうね。」と聞い、たかしの気持ちに共感しやすくする。 ・谷本さんの気持ちを問い合わせ、蒜山の地を愛し、入植した人々と共に蒜山で暮らしていきたいと願う谷本さんの気持ちに気付けるようにする。 ・苦労が実った谷本さんの気持ちを問い合わせ蒜山の特色を生かした特産物として「蒜山だいこん」を大切に育てたいという思いに気付くようにする。 ・ワークシートに記述することで、いつも食べていた大根をおいしく感じた根拠を深く考えることができるようする。 ・多くの人に蒜山だいこんのことを話したいと思うようになったのはなぜかと問い合わせ、地域の人々の思いを知り、たかしにとって「蒜山だいこん」が特別な大根になってきていることや、地域の一人として郷土に関わりたいと思うようになってきていることに気付けるようする。
3 今までの自分振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 郷土の人々の思いを考え、自分から地域の行事等に参加できましたか。 <ul style="list-style-type: none"> ・お祭りに行くと地域の人が喜んでくれた。 ・郷土の人の思いまでは気付けていなかった。分かるようになりたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が地域で活動している写真等を提示することで、児童が振り返る助けとする。
4 地域の方の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の方のお話を聞きましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">郷土の人々の思いを知って、地域の行事にも進んで参加していきたいな。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に地域のよさや地域への思い、児童への願い等を話してもらい意欲を高める。
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の人々の思いを知り、進んで郷土に関わろうとする気持ちの大切さに気付くことができたか。 ・郷土や地域の行事や活動に進んで参加しようとする意欲を高めることができたか。 	

5 他教科との関連

特別活動「地域のクリーン作戦」「神社等の清掃活動」等を通して、地域に引き継がれてきた行事を知ったり、地域の人々の願いや思いに直接触れたりすることで、郷土を大切にしようとする心情や態度をさらに育てる。

蒜山だいこん

4年()組()

○大根がいつもよりおいしいと感じているたかしは、
どんなことを考えているでしょう。

